

会報

No. 21 (第 1605 回) 2023 年 2 月 1 日 (水) 12:30~

第 2820 地区 大野治夫ガバナー 地区スローガン “enjoy life ~人生を楽しむ~”
2022-2023 橋本壽郎会長スローガン 「楽しい奉仕活動で輪を広げよう」

本日のプログラム: 外部卓話②

インターアクト委員会(浅川清司委員長)

外部卓話:水戸農業高等学校インターアクトクラブ卓話

1 月 18 日 例会報告(第 1604 回)

◆ 幹事報告

報告者:厚見和則幹事



- 那珂市国際交流協会から、国際交流協会ニュースおよび多文化共生セミナー「食文化から考えるベトナムと日本」の案内が届いています。2月11日(土)、参加無料、先着50名とのことです。
- 東海村役場から、東海那珂ロータリークラブ15周年記念事業で寄贈した時計が故障し、修理不能とのことで、撤去してよいかとの連絡がありました。会員の皆様にご意見を伺いまして、再度、東海村に詳細確認してから回答しようと思います。
- メルボルン国際大会のツアー申込を2月28日まで延期するとの連絡がありましたのでお知らせいたします。
- 2月5日に大洗ロータリークラブの50周年記念式典が開催されますので、会長、幹事で参加いたします。

◆ ニコニコボックス

報告者:ニコニコボックス委員会 藤田明英委員長



『よろこびの言葉』

氏名	よろこびの言葉
橋本 壽郎	本日は、鈴木委員長様 宜しくお願ひ致します。
厚見 和則	職業奉仕総括委員長 鈴木富士雄様、本日はありがとうございます。 どうぞよろしくお願ひ致します。
海野 宏幸	職業奉仕総括委員長 鈴木富士雄様、本日の卓話宜しくお願ひします。
藤田 明英	明けましておめでとうございます。ご挨拶が遅くなりましたが、本年も宜しくお願ひ致します。 妻の誕生祝いありがとうございました。

◆ 本日のテーマ：月間テーマ卓話(職業奉仕委員会)

卓話者紹介:職業奉仕委員会 海野宏幸委員長



今月は職業奉仕月間です。月信1月号の大野ガバナーメッセージに職業奉仕とは、自分の職業が他人を思いやり、自分の職業を通じ、世な為人の為に奉仕・貢献するとの意識を持って行う事が、一番だと思っております。ロータリーは職業人の集まりです。従業員あるいは顧客へのサービスで企業の永続性がもたらされる。「道徳的レベルを上げ、企業発展につながる」という考え方が職業奉仕の理念です。最近では環境問題に関連した奉仕活動を展開しています。2820 地区が呼びかけ、オールジャパンで実施した海岸清掃や当クラブのロータリーの森整備活動など社会奉仕委員会と一緒に取り組んでいます。本日はつくば学園RC所属の地区職業奉仕総括委員長の鈴木富士雄委員長を講師としてお迎えし、卓話をお聞きます。

◆ 職業奉仕について

卓話者: 2820 地区職業奉仕委員会 総括委員長 鈴木富士雄様(つくば学園 RC)



職業奉仕委員会

この委員会は、本クラブの会員が、その職業関係における諸責務を遂行し、各会員それぞれの職業における慣行の一般水準を引き上げるうに役立つ指導と援助を与えるような方策を考案し、それを実施するものとする。

職業奉仕

ロータリーとは何かと問われたとき、これを簡潔に答えることは非常に難しいことですが、少なくともロータリアンであることを自負するならば、世の中沢山存在する奉仕クラブとの本質的な違いが、一人一業種で選ばれた職業人の団体であり、職業を通じて各々の会員が奉仕をする、いわゆる職業奉仕を主な目的にしているクラブであることを、まず最初に理解しておく必要があると思います。

ロータリーがどんな奉仕活動をしているのか思い起こしてみてください。ロータリー財団に寄付をして、それによって沢山の留学生に勉強するチャンスを与えていますし、単に勉強するチャンスを与えるだけでなく、世界親睦、国際親善という機能も合わせて持っています。しかし、そういった活動はロータリーだけが持っている独特な活動ではなく、姉妹都市協会とか、国際交流協会などのいろいろな団体が、国際親善の活動や、留学生を送り出したり受け入れたりする活動をしており、この活動がロータリー独特の奉仕活動と言い切ることではできません。また、いわゆる発展途上国に対する人道的な援助もロータリーが力を入れている活動の一つではありますが、これを行っている団体は他にも沢山あり、NGOやNPOなどその目的のために設立されている団体すらあって、この分野の活動もロータリーの特徴とは言えません。地域社会に対する奉仕活動も同じことが言え、阪神淡路大震災に際して、いろいろな素晴らしい活動を展開しましたが、これとて、ロータリーだけの専売

特許の活動ではなく、沢山の団体が多くの活動を展開しており、むしろロータリーのやっていることなど、ささやかなことに過ぎません。そう考えていったときに、ロータリーが他の団体と根本的に違う点は何なのか、ロータリーの主な使命は何なのか、ロータリーは何をすべきなのかという疑問が浮かび上がってきます。

ロータリアンは果てしない夢を追い続ける夢追い人であり、クラブ例会はその夢をどのようにして実現させるかを語り合う場所でもあります。ある人は戦争のない平和な世界を夢み、ある人は飢餓と疾病のない健康な世界を夢みます。青少年が穏やかに育つことや、老後の平穏な生活を夢みる人もいるに違いありません。それらの多くの夢をかなえるためには、まず我々個人個人の職業生活が安定したものであることが前提となります。ロータリーの綱領が、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」という文で始まり、更に、綱領付帯事項の第2項に「事業及び専門職種の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであ

る」という認識を深めること。そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。」と銘記されていることは、ロータリーの根幹が職業奉仕にあることを意味し、職業奉仕の究極の目標が倫理基準昂揚の運動であることも明らかです。数多く存在する奉仕クラブの中で職業奉仕の理論付けと実践を根底に置いて活動をしているクラブは、ロータリークラブだけであり、換言すれば、職業奉仕クラブであることがロータリークラブの特徴とも言えましょう。

- 約37年前、1985年、昭和60年かな(私が37歳の頃)アメリカのマイアミでLD.Pankey InstituteでLDパンキーの歯科診療フィロソフィー『**歯科診療哲学**』を学びました。
- そのころロータリーはただ奉仕的なこと、ボランティアをしているグループだと考えていました。



そもそも最初ロータリーは何をしているのかわかりませんでした。所謂、奉仕団体かなと思っており、5～6年はあまり意味がないかなとか、仕事中に電話が入ると患者さんの頭の上で電話を続けているのが、嫌でしょうがない時期もありました。

その後、先輩、千種会、ロータリー源流の会や地区に行った際、いろんなことを勉強させられました。その結果、驚きました。私がそれまで思っていたロータリーとは全く違ったロータリーがそこにあったのです。ロータリーは何かいいことをやる人の集まり、所詮ボランティア、奉仕団体だと思っていたのが、それは一部であってその本体は別にあっただけだと思いましたが、それは一部であってその本体は別にあっただけだと思いませんでした。シェルドンの奉仕の哲学(ロータリー哲学)を知り、始めて、これがロータリーの本体であつたんだと気が付きました。ロータリークラブは単なる社会奉仕のためのボランティア組織ではなく、職業奉仕の理念に基づく職業倫理の高揚とその実践を目的とする団体であるのかなど、考え始めました。

職業奉仕はアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した考え方をそっくりそのままロータリーが受け入れた。他の奉仕団体には存在しない独自の奉仕理念です。

職業奉仕の理念は資本主義社会が花開き、かつ過酷なまでの自由競争のシカゴの町で、事業人が如何に収益を上げながら事業を持っていこうかと考えている中で「職業奉仕」は必ず世の中の道徳的なレベルを上げていくながらしかも自分の事業を守っていけると言う理念として発表されました。

シェルドンは都合4回の国際大会で職業奉仕の理念を説いています。

シェルドンによる奉仕理念の提唱

- 1911年 ポートランド大会
私の宣言
- 1913年 パツファロー大会
事業を成功させる哲学と職業倫理
- 1921年 エジンバラ大会 ロータリー哲学
- The Rotarian に掲載された2回の小論文
The symbolism of service 1918年9月号
- 1910年 シカゴ大会
The philosophy of service 1921年2月号

19



Arthur F. Sheldon

シェルドンのサービスの発見

持続して反映している企業に共通する特徴

サービス

- 経営者や従業員の顧客への態度や気配り
- 商品や、業務に対する責任
- 顧客が感じる満足感と公平感

サービスこそが

企業の永続的な発展と成功を保証する唯一の方法

(1911年ポートランド大会にて)

アーサー・フレデリック・シェルドンは、悪い商習慣がはびこり、浮き沈みの激しい街の中で、持続して繁栄している企業だけに見られる特徴が、サービスであることを発見しました。

価格が安いことだけがサービスではなく、経営者や従業員の顧客への態度や気配り、商品や義務に対する責任、顧客が感じる満足度と公平感、こういったもの全てが、サービスであり、サービスこそが企業の永続的な発展と成功を保証する唯一の方法であることを発見したのです。

• 相手に対するサービスを自己の利益や都合より優先させよう。利益はサービスの結果である。相手のために最善のサービスを提供すれば、結果として最大の利益(金銭的な利益だけでなく満足感・幸福感も含む)が得られる。ここで主張されている思想こそ、「職業奉仕の理念」、「奉仕の理念」、の核心です。

• そして注意しなければならないのは、これは決して利益を求めて奉仕するという「功利主義」的な思想ではなく、他人のために役立つことが自らの幸せ「喜び」であるという、他者「人」に奉仕すること自体を目的とする「利他主義」の思想だということです。

職業奉仕とは



Service Above Self
He Profits Most
Who Service Best

「超私の奉仕」

「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」

この理念に基づいて普遍的に行う職業生活のことを、われわれロータリーでは職業奉仕と言っているのです。

職業奉仕について

- 「ロータリーモーメント」は田中作次RI元会長が提唱
- 心に残るロータリーの感動体験
- 2013～2014年度のRI会長ロン・バートン会長
- ロータリーに打ち込むきっかけとなる何かを
- ロータリーで見つけた体験

- ロータリークラブが職業人であるロータリアンで構成されている以上、会員個人の事業母体の発展ないしは安定的な維持、利益の向上を図ることが、ロータリー運動を維持し発展するための大前提であると考えました。シェルドンは繁栄する事業の共通的特徴に、顧客や取引先の立場を配慮したServiceがあることを指摘し、不正や不道徳や世間を受け入れられないような方法で、一攫千金の利益を上げるよりも、「自分の事業の永続性のある発展は、顧客や取引先や従業員や下請けなど自分の周りにいる人たちの幸福に配慮しながら、適正な利潤を確保することによって、始めて得られるものである」とする考え方を説き、それがロータリーの標語である He profits most who serves bestを生み出しました。

職業奉仕とは

- 単に自己の職業活動にただ打ち込むことでも、利益を無視してサービスをすることでもありません。
- 「超私の奉仕」そして「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」という二つの「奉仕の理念」に基づいて、まず、相手のために、最善のサービスをすることにより、その結果として最大の金銭的利益と最高の精神的満足がえられる。このことを信じ、この理念に基づいて普遍的に、いつでも、どこでも変わらず行う職業生活のことを、われわれロータリーでは職業奉仕と言っているのです。

◆ 会合報告

会 合 報 告

報告者：ロータリー財団委員長代理
厚見 和則

会 合 名：2022-2023 年度 ロータリー財団セミナー
形式及び目的：集合研修会
と き：2023 年 1 月 14 日(土)14:00～17:00
と ころ：テラスザガーデン水戸
主 催 者：国際ロータリー第 2820 地区
出 席 者：ロータリー財団委員会
議 事：

1. 補助金事業について

- (1)ポリオプラスの現状
- (2)新井年度地区補助金報告・大野年度地区補助金報告書提出状況について
- (3)グローバル補助金の現状及びウクライナにおける災害救援補助金事業について
- (4)国際交流奨学金の現状について
- (5)VTT の状況について

2. 寄付状況・その他について

- (1)寄付の現状について
- (2)ポールハリスソサエティーの現状について
- (3)ロータリーカード作成のお願い

会 合 報 告

報告者：職業奉仕委員会
海野宏幸

第二回地区職業奉仕セミナー参加報告

日 時：令和5年1月21日(土) 13:00～17:00
場 所：つくば市 H日航つくば 別館 昇

大野ガバナーの点鐘後、地区職業奉仕総括委員長 鈴木富士雄氏の挨拶に続き、特別講演 香川県さぬき市の徳武産業 十河孝男 会長の「寄り添いの経営」聴講。介護施設より入所者の転ばない靴が欲しいとの声を聞き、介護シューズを開拓参入サイズ違い、片方だけの靴の販売等で介護シューズ市場の55.8%のシェアを占有。日本一となる。年間200万足を販売するが、この内約25%がサイズ違い・片方などの特別対応アイテム。地域貢献でも毎月の清掃活動、駐車場の排ガス対策での前向き駐車徹底、集約された中学校に通学する生徒のため、トイレを作り、自由に使ってもらっている。また予想される南海・東南海地震のための防災倉庫を作り、地域共生を計っている。年間2万通の感謝の手紙が届くほどになっている。

第二部の特別講演は前回のpart2として、元法政大学 教授の「人を大切にする経営学会」会長の坂本光司先生による「事例に学ぶ地域社会に貢献する五方良し企業」を聴講してきました。

◆ 会員よりの情報欄

※ 橋本和一郎様より岐阜での生活状況について寄稿いただきました。

～岐阜より～

会員の皆様お元気でお過ごしでしょうか。

私のほうは、昨年秋ごろより岐阜生活の準備を進め、現在ほぼ落ち着いた毎日を送っております。岐阜は、市内を長良川がゆったりと流れ、いにしへの香りが漂う落ち着いた街です。日曜日には、近くの公園で野外演奏会などが催されみなさん家族連れで楽しんでいます。この写真は自宅の窓越しに撮ったもので、金華山と岐阜城が真正面に映っております。11月から12月にかけて、金華山の手前の長良川の河原で打ち上げられる花火を鑑賞しました。

以上、簡単ですが、岐阜便りとさせていただきます。

OB 会員 橋本和一郎



金華山と岐阜城（橋本和一郎元会員の岐阜の自宅からの眺望です）

◇ 募集中 ◇

会員よりの趣味の話、ペットの話等幅広く情報として提供いただき「会員よりの情報欄」を設けて、会員間のコミュニケーション向上を図るため情報提供時に、掲載することとします。
皆様より、提供をお待ちしております。（会報委員会）

次回例会：2月8日（水）12：30～ 職場訪問

職業奉仕委員会（海野委員長） 日本原子力発電東海第二発電所（猪股会員）

例会を欠席する時は、必ず前日 12:00 までに事務局まで連絡のこと

クラブ会報委員会：委員長 富永康修／副委員長 桐嶋健二／委員 佐藤広道、橋本和一郎